

令和元年10月10日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の（+）は多発要因，（-）は少発要因であることを示している。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏 秋 ト マ ト	灰色かび病	並	9月下旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病果，発病葉は早めに摘除し，施設外に持ち出し適切に処分する。
	コナジラミ類	並	9月下旬発生量 オンシツコナジラミ：少（-） タバココナジラミ：並 黄色粘着板トラップ誘殺数 ：少（-） 気象予報：気温高（+）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	アザミウマ類	やや多	9月下旬発生量：やや少（-） 黄色粘着板トラップ誘殺数 ：やや多（+） 気象予報：気温高（+）	
冬 キ ャ ベ ツ	黒腐病	多	今春発生量：多（+） 10月上旬発生量：多（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 風雨後は速やかに薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	黒斑病	並	10月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 多発ほ場では、薬剤防除する。
	さび病	やや多	10月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 多発ほ場では、薬剤防除する。
	べと病	並	10月上旬発生量：並 ねぎべと病なびによる発生確率：10%未満 気象予報：気温高（－） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 気温が15℃前後で発病しやすい。発病してからの薬剤散布では効果が劣るので、感染の可能性が高い降雨や霧の発生が予想される時は、予防散布を行う。
	ネギアザミウマ	やや多	10月上旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 多発ほ場では、薬剤防除する。
イチゴ	うどんこ病	やや少	10月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（－）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ハダニ類	並	10月上旬発生量：少（－） 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
ナシ	黒星病	少	9月下旬発生量：少（－） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 翌春の発生源となる芽基部への感染を防ぐため、落葉期まで2～3回薬剤散布を行う。
温州ミカン	黒点病	並	9月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。 枯れ枝は伝染源となるので除去し、園外で処分する。
	ミカンハダニ	やや少	9月下旬発生量：少（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
	カメムシ類	やや多	9月下旬叩き落とし虫数：やや多（＋） 9月果樹予察灯誘殺数：やや多（＋） 9月フェロモントラップ誘殺数：多（＋） 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	並	9月下旬発生量：並 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	並	9月下旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温高（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
野菜・花き共通	コナガ	並	10月上旬発生量 冬キャベツ：並[発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 発生予報第6号P3「これから注意を要する病害虫」を参照。
	ハスモンヨトウ	並	9月フェロモントラップ誘殺数：少（－） 9月下旬発生量 夏秋トマト：並 カーネーション：並 10月上旬発生量 イチゴ：やや少（－） 秋冬ネギ：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 中齢期以降の幼虫は薬剤の防除効果が著しく低下するため、早期発見、早期防除に努める。 ハスモンヨトウは、発生予報第5号P4「これから注意を要する病害虫」を参照。
	オオタバコガ	並	9月フェロモントラップ誘殺数：少（－） 9月下旬発生量 カーネーション：並 気象予報：気温高（＋） 降水量並	

II その他の情報

ビワを加害する果樹カメムシ類の来年の発生について

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特に、主力種であるチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測することが、二重袋^(注1)の手配など、早期に防除手段を選択するための産地情報として重要である。

2020年4～7月の発生量（予測数）については、南房総地域のスギ雄花生産量^(注2)と集合フェロモントラップ誘殺数を用いたチャバネアオカメムシ越冬後成虫発生量の予測モデルから、本年と同程度の発生が予想されている（図）。

ただし、果樹カメムシ類が飛来する量や時期は、地域やほ場により差があるので、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生量に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

（注1）二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁が抑制される効果がある。

（注2）スギ雄花生産量は農林総合研究センター森林研究所のデータによる。

（注3）予測モデルによるチャバネアオカメムシ越冬後発生頭数は、1～100頭未満を少発生、100～1,000頭未満を中程度の発生、1,000頭以上を多発生としている。

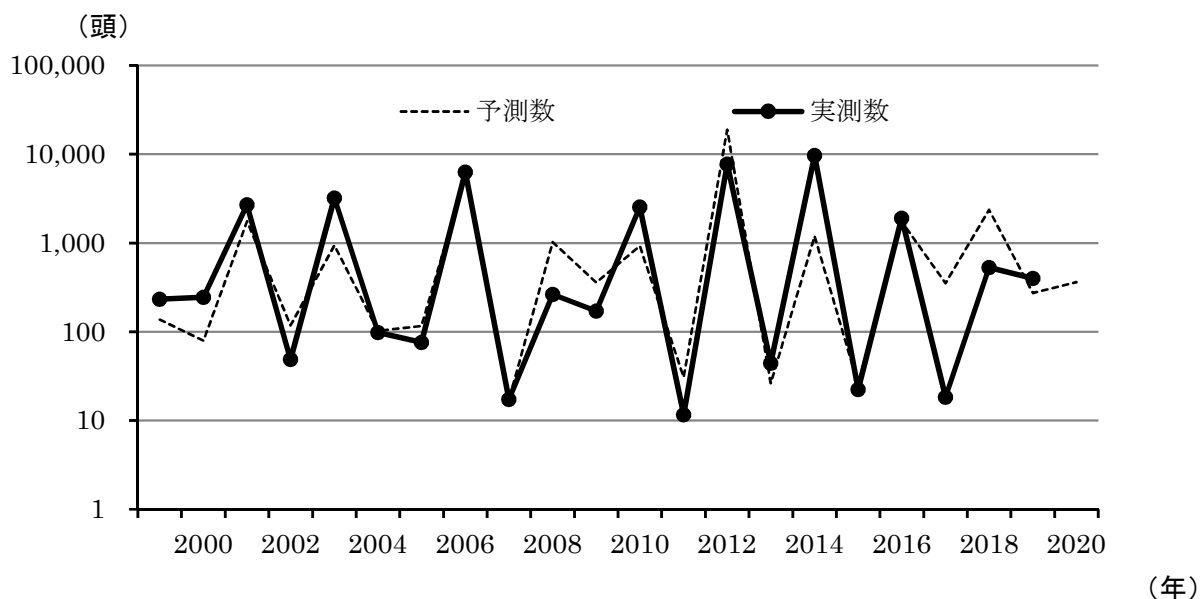


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ誘殺数の発生予測数及び誘殺実測数の年次変動

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬，果樹・花き：9月下旬，サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	斑点米 黒点米(黒点症状米を含む) その他着色粒	発生粒率(%)	0.72	0.14	0.15	1.7mmで篩掛 けた玄米 5000粒で調査	
		発生粒率(%)	0.04	0.03	0.04		
		発生粒率(%)	1.12	0.09	0.07		
サツマイモ (印旛, 香取)	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ イモキバガ	100葉あたり寄生幼虫数	0.00	0.15	0.00		
		100葉あたり寄生幼虫数	0.60	1.03	1.00		
		被害葉率(%)	0.40	1.20	0.20		
夏秋トマト (山武, 印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	1.88	1.60		
		発病果率(%)	0.00	0.03	0.00		
		果実発病度	0.00	0.38	0.00		
	葉かび病	発病株率(%)	10.00	5.24	0.80		
		黄化葉巻病	発病株率(%)	1.40	1.93	3.80	
		オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	11.08	3.60	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	1.84	0.00		
		ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	2.92	0.00		
		アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	2.00	9.88	14.40	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.30	112.34	83.20		
		アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	331.70	36.02	23.00	
冬キャベツ (海匝)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00		
		発病度	2.50	0.00	0.00		
	コナガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00		
秋冬ネギ (山武, 長生)	黒斑病	発病度	2.95	6.80	2.60		
		さび病	発病度	0.13	0.04	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.44	4.00		
		ネギアザミウマ	被害度	23.70	18.89	31.60	
	ハスモンヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.48	0.00		
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.80	0.48	0.00		
	ネギコガ	被害株率(%)	0.00	0.26	0.00		
	ネギハモグリバエ	被害度	0.25	10.73	11.70		
イチゴ (山武, 海匝, 安房)	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	2.76	0.53		
		アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	6.67	2.05	0.90	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.80	3.59	1.89		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	1.33	8.08	8.67		
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.08	0.93	0.19		
		炭疽病	発病葉率(%)	0.00	0.10	0.00	
	ハマキムシ類	被害葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.03	0.87	1.92		
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.05	0.48	0.08		
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.05	0.11	0.28		
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00		
	黒点病	果実発病度	0.40	0.74	0.32		
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.06	0.00		
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	5.02	0.20		
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.60	1.64	0.40		
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	1.80	0.00		
	カメムシ類	被害果率(%)	0.00	0.08	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.00	1.68	0.75	台風による被害のため1か所の調査	
		アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.03		0.00
		カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.98		0.00
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率(%)	0.00	1.12	0.00		
		立枯病	発病株率(%)	0.00	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率(%)	17.33	25.32	10.40		
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.80		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.80		
	ヨトウムシ類	被害株率(%)	1.33	6.72	5.60		
	ハダニ類	雌成虫寄生株率(%)	2.67	14.16	0.80		
	オオタバコガ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.64	0.00		

トラップ月間誘殺数（9月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭）			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	香取 *注	0.00	0.30	0.30	
	セジロウンカ	〃	0.00	5.00	0.30	
	トビイロウンカ	〃	0.00	2.10	0.00	
	ヒメトビウンカ	〃	3.00	1.00	0.70	
	ツマグロヨコバイ	〃	12.00	340.50	123.70	
	フタオビコヤガ	〃	0.00	0.80	1.00	
	イネヨトウ	〃	15.70	10.10	15.70	
	ニカメイガ	〃	0.00	0.30	1.70	
	コブノメイガ	〃	0.00	0.00	0.00	
	イネクロカメムシ	〃	3.00	31.10	33.30	
	クモヘリカメムシ	〃	2.00	2.80	1.30	
	ホソハリカメムシ	〃	2.00	0.10	0.00	
	イネカメムシ	〃	8.00	2.60	5.00	
	ミナミアオカメムシ	〃	1.00	9.70	33.00	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	1.00	4.20	5.00	
	アカスジカスミカメ	〃	0.00	37.30	77.70	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	2.00	3.20	7.00	
	クサギカメムシ	〃	0.00	0.80	0.70	
	ツヤアオカメムシ	〃	2.00	1.10	3.30	
	アオクサカメムシ	〃	0.00	0.30	0.70	
	イチモンジカメムシ	〃	0.00	0.40	0.00	
	ホソヘリカメムシ	〃	0.00	0.00	0.00	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	1.00	6.30	3.30	
	オオビロウドコガネ	〃	1.00	2.90	0.70	
	ヒメコガネ	〃	2.00	0.80	6.70	
	ドウガネブイブイ	〃	0.00	0.30	0.30	
	オオクロコガネ	〃	1.00	0.90	0.30	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	27.00	8.60	10.00	
	クサギカメムシ	〃	4.00	6.10	5.00	
	ツヤアオカメムシ	〃	7.00	4.40	2.00	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.00	0.40	0.00	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	111.30	63.00	23.60	
	ヒメコガネ	印旛, 香取	36.20	15.50	3.40	
	コナガ	海匠, 安房	9.10	9.70	14.60	
	ハスモンヨトウ	県内全域	723.3	1107.20	1391.60	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	87.5	55.90	55.20	
	オオタバコガ	県内全域	50.9	123.40	125.00	
	タバコガ	県内全域	13.2	59.90	43.80	
	ネギコガ	東葛飾, 香取	134.7	30.50	86.50	
	ナシヒメシンクイ	東葛, 印旛, 香取	53.7	0.30	21.50	
	モモシンクイガ	東葛, 印旛, 香取	0.3	0.30	0.00	
	チャハマキ	印旛, 香取	5.5	5.60	8.10	
	チャノコカクモンハマキ	印旛, 香取	54.0	40.9	23.80	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	千葉, 印旛, 香取, 安房	380.40	134.50	124.10	
	ツヤアオカメムシ	〃	60.6	36.10	12.20	
	クサギカメムシ	〃	22.10	10.8	4.80	
	マルボシヒラタヤドリバエ	〃	21.20	11.7	15.20	

注) 水稲予察灯の本年値は、千葉市、南房総市地域が停電により欠調したため香取市の結果を参考地として記載した。

果樹予察灯は停電のため13日間欠調した。

2017年は千葉市の水稲予察灯が9/9～9/30まで欠調している。

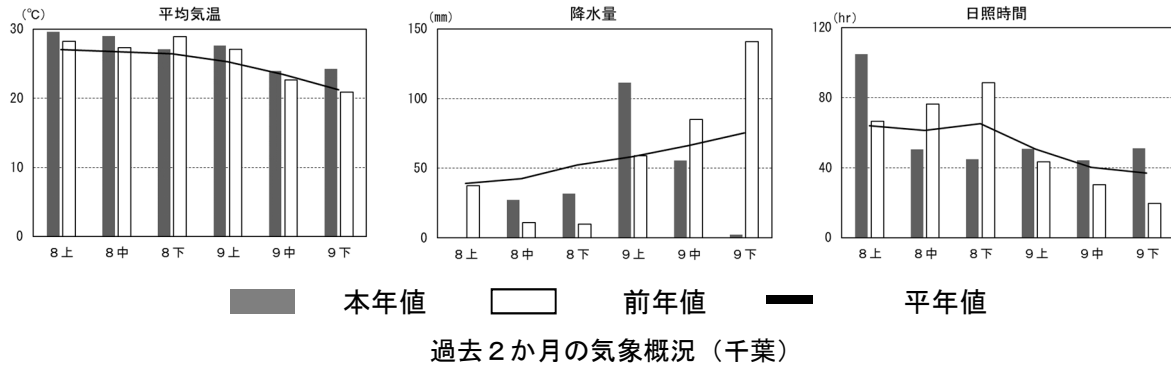
○気象予報

10月3日気象庁地球環境・海洋部発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	30	60
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(10月10日～11月12日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.3	17.2	16.5
降水量(mm)	151.4	200.6	196.2
日照時間(hr)	157.6	159.8	160.5



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は11月13日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp